



2003 年 12 月 1 日発行
 発行人：堺 充廣
 発行所：神戸市中央区海岸通 8
 神港ビルヂング 5 階 509
 TEL/FAX：078-393-0050
 (TEL・FAXとも同じ番号です。)
 E-Mail：kobekeio@dream.ocn.ne.jp
 URL：<http://www.kobekeio.org/>
 編集：堀 友子・八巻 晤郎

～ 関西合同三田会開催～

11 月 16 日（日）予報では雨も心配されましたが、秋晴れの下大阪市中央公会堂で関西合同三田会が大阪慶應倶楽部主幹で行われました。

我が神戸慶應倶楽部からは当日登録を含め 40 数名の会員が参加いたしました。

私も永年大阪で仕事をしていますが、中ノ島の公会堂には入ったことが無く大変楽しみに致して



おりましたが、期待どおり大正ロマンの香りを残した公会堂内部の雰囲気には気後れさえる重厚さ、歴史の重みとそれを支える大阪の人々の気心を感じました。

午前 10 時、大阪慶應倶楽部の**銭高一善**会長のご挨拶にはじまり、**服部禮次郎**連合三田会会長のご祝辞のあと、**安西祐一郎**塾長の記念講演と、厳かな中にも新しさを感じさせるお話が続きました。

中でも塾長の「**慶應義塾と国際交流**」の講演には“流石慶應！”あるいは“塾出身者で良かった！”と誇りの持てる活動をされて



いる塾の素晴らしさをあらためて感じる事が出来、私だけの感じ方かもしれませんが“最早、慶應義塾は大学をはじめとした教育の場だけに留まらず、世界にネットワークをもつ巨大な研究センターになっている”と云う感を強く持ちました。

更にはその巨大研究センターの中核を成す「語力に溢れた人間形成、見識の高い人材の育成」まで踏み込んでいる塾の姿勢には頭の下がる思いをもったのは私だけでは無いでしょう。



場所を 3 階に移しての大懇親会は小川理子さんが演奏する JAZZ バンドの調べとお酒に酔いながら歓談、大福引抽選会で

は高橋さんが寄贈された真珠のネックレスが最大の目玉賞品として紹介され、当選者は場の全員から羨望の眼差しを受ける榮譽に浴されることとなりました。

私としては昨年の奈良に引き続き参加を致しました関西合同三田会ですが、其々のホスト倶楽部の一生懸命になって準備されたご苦勞の跡が伺え、また同じ塾出身者として関西が一つの気持ちになれる唯一の機会と云うことを今年は強く感じました。

是非、来年の京都にも出かけてみたいと考えています。 記事：中内 豊（昭 57 商）



『タイガー ジャージ』

中神（李） 安邦（昭三十九文）

ケガと闘い グラウンドに復帰

ラグビーにケガはつきもの。

例に漏れず私も一年生で首を捻挫。頭を蹴られて裂傷出血、麻酔なしで五センチ縫った。一年生の時、出場した東大戦では靱帯と半月板を損傷。手術で半月板をとり、靱帯を縫い一ヶ月程入院した。走れない私は練習に参加できず、落ち込んで退部まで考えた。しかし、仲間の励ましで二年生秋から練習に復帰した。

ピヨコタン、ピヨコタンと不細工な格好で走ろうと努める私に、兵庫高校のOBで高橋正昭という当時の監督が、棒で私の尻を叩きながら「まともにも走れ走れ」と言いながら一緒に走ってくれた。手術した医師に、「回復は五分五分、将来はリュウマチになること保証付」と言われた私だが、今時点でリュウマチとは無縁である。

監督や仲間みんなの励ましで半年、リハビリを兼ねてピヨコタンと走り続けて練習し、地獄の夏合宿もこなして、シーズンに入って試合に出してもらった。棒でたたかれても走れたのは、監督が、たまたま高校の先輩で、目をかけてくれたお蔭ではなかっただろう

か。四年生では練習試合で右鎖骨を折って二試合出られなかった。しかし、現役に復帰できたのである。

ケガは多かったが、一つのポジションに四人の控え選手がいるから、競争原理で取り合いになる。ケガしたら、次のヤツに出番が回る。そういう時代だったな。一軍選手が他校チームと試合する以前に、自校のチームの中で勝たなければならず、ケガをすると、もう試合に出られない現実が待っていた。

「坊ちゃん校」が猛練習

私が入部した時、さすが優勝候補と言われるだけあってラグビー部員は百名以上、慶応高校出身と地方出身が半々だった。慶応は「坊ちゃん学校」だが、あにはからんや、先輩は「お前ら、技術も体力もとんでもなく下手だ。他校より二倍、三倍練習しないと勝てねえぞ」と言う。

ではどうすれば勝てるか。「(他校の)倍以上練習しろ」「放課後三時から夕方まで、時には真つ暗になるまで、猛練習、猛練習の連続で、時間も長く、内容もきつい練習でしごかれた。無論ラグビーは楽な練習で勝てるスポーツではないが、慶応という世間の

イメージに程遠い、こんなに泥くさいチームだとは夢にも思わなかった。

「もてたい」夢砕く新人鍛錬

高校卒業直後は、こんなしんどい、汚い運動はやめた。大学に入ったら、絶対にラグビーはすまい、と思いつながら、私が慶応の「タイガー ジャージ」に憧れたのは、慶応ラグビーは、カッコいいから、女の子にもてるという一念が心の底にあったのかもしれないが。

我々一年生二十人はチームを組んで、いつも上級生の練習台を務めさせられた。上級生は、どんどんメンバーチェンジして、新しいメンバーに替わって対戦する。しかし、我々一年坊主の新人は最初から最後まで連続して試合に付き合わされた。鍛錬かもしれないが、終わっても我々は「たるんでる!」と言われてグラウンド回されたり、タックル練習をさせられたり、別な方法でしごかれた。えらいチームに入ったな、と思ったものだが、チーム力は保たれた。

(次号に続く)

会員だより

旅行記特集

書籍紹介「文武両道、日本になし！」

高田 育明(昭 51 医)

映画ターミネーター3を見ました。確におもしろい。その主演男優のシュワルツネガー氏がカリフォルニア州知事に選出されたことを聞き、日本人としてはある種の“違和感”を感じました。

しかし、彼は、ボデービルダー、ウイスコンシン州立大学卒業(経営学)、成功した企業経営者などの多方面の才能を見せております。この“違和感”に回答を与えてくれる書籍を、ある先輩が教えてくれました。

「文武両道、日本になし - - 世界の“秀才アスリート”と日本の“ど根性スポーツマン”」

マーティ・キーナート著 加賀山卓朗(訳) 早川書房(2003年4月10日初版)

Where are the Scholar-Athlete? - - はるか昔、“文武両道”という言葉は、学芸と武芸の両方に秀でていることをさした。しかし、今日この言葉は、一般に学問とスポーツ両方に優れた人物をさす。海外では一流のスポーツ選手から医者や弁護士に転進した“文武両道”の秀才アスリートが数多く存在する。一方、日本ではどうだろう? 一つのスポーツか一つの学問にのみ身を捧げ、そのことを誉めたたえる奇妙な“美德”がありはしないだろうか? 古臭く、柔軟性のないシステムが“文武両道”の可能性を秘めた子供たちの芽を摘み取ってしまっているのではないか? テレビ等でお馴染みの日本在住のスポーツ・ジャーナリストが、世界の“秀才アスリート”の横顔を紹介しながら、日本の教育・スポーツ制度の抱える問題点を指摘する辛口エッセイ。

キーナート氏は言う、本物の“秀才アスリート”は、日本で例えれば、甲子園野球のスター選手というだけでなく、その後プロ野球選手としても活躍し、それに加えて東大などに入り、医師や、弁護士、歯医者、エンジニア、科学者などにならなければならない。スポーツと学業の両方で頂点に立って、初めてトップレベルの秀才アスリートをいえる。

著者：マーティ・キーナート 1946年ロサンゼルス生まれ。スタンフォード大学卒業。流暢な日本語を生かし、テレビ・ラジオでプロ野球・大リーグ解説をするかたわら、スポーツを通じて日本と海外の文化、国民性の違いなどを論じる評論・講演活動を行っている。

独蘭音楽紀行

藤井 文明(昭 39 工)

39年と少しの会社生活をこの6月に卒業したので、久しぶりに家内と二人で欧州への旅行をしました。今回の目当ては、自宅でホームステイとして預かった二人のアニタ(一人はドイツのライプツィヒ、もう一人はオランダのライデンに夫々在住)に会うことと、本場の音楽を聴くことに集中して訪問場所を決めました。

最初の訪問地ドイツ南部の町ガルミッシュ・パルテンキルヘンまで、わざわざ500kmの距離を列車で駆け付けてくれた大学生のアニタ、ライデンの運河沿いの家に三日間泊めてくれた今年40歳になるアニタに再会を果たし、夜のふけるまで楽しかった神戸での生活のことなどを話し合いました。次は音楽ですが、丁度ドイツのボンで開催されたベートーベンフェスティバルでの室内楽によるマーラーの4番を手始めに、ベルリンでベルリンフィルとポルリーニ、アムステルダムコンセルトヘボウでオーケストラと合唱によるミサ曲、アウクスブルクではオペラ・リゴレット、フランクフルトでピアノ独奏と管弦楽によるイタリアのハロルドなどを楽しみましたが、なんと言っても最大の喜びは、古くからのババリア人(ドイツ南部のババリアに住む人達は、自分達はドイツ人ではない、ババリア人と呼んでくれとかたくなに言います)友人夫妻が、我々二人だけの為に用意してくれたロマンチック街道の町の一つ、ネルトリンゲンの古い教会の、200年前に作られたパイプオルガンによるプライベートコンサートでした。演奏する友人ゲッツ氏は、飽きたら外でコーヒー飲んでいいよと言ってくれましたが、演奏時間1時間半があっという間に過ぎてしまう感じでした。

来年以降には、今回行けなかったウィーンを目指すつもりです。ウィーンにも震災時に神戸のドイツ領事館にいて、今はウィーンのドイツ大使館に外交官として勤務されているオットさん(若い女性)を訪ねて、これまた本場の音楽を楽しむつもりでいます。どなたかドイツ語の堪能な方がご一緒して頂けるとうれしいですね。

会員の皆さま、楽しい旅行の思い出を綴って投稿してください。順次掲載させていただきます。

同好会だより

「イーゼル会」

今月の絵



(牧野 聖子)

ゴルフ同好会

新見 みつ子(平8文)

11月14日(金)神戸慶應倶楽部と関西婦人三田会(KLA)のゴルフ同好会が、神戸ロイヤルパインズゴルフ倶楽部で合同コンペを開催しました。

当日は幹事殿の切なる願いが届いたのか、久々の穏やかな小春日和、近江慶應倶楽部から2名、芦屋三田会からも1名のご参加をいただき、総勢16名で秋色に染まった美しいコースに繰り出しました。メンバーの中には肩や腰に不安をかかえてのスタートの方もいらっしゃいましたが、上手にいたわりながら不安などなんのその、絶好のゴルフ日和に誘われてナイスショット、加えて迷プレー、珍プレーも織りまぜてのラウンドでした。

プレー後の懇親会では親交をあたため、再会を約してすっかり日暮れて暗くなったゴルフ場を後にしました。ちなみにコンペの結果は、オネストな自己申告ハンデにより、優勝は長谷川 登喜さん 準優勝は廣川 まもりさん 女性陣の見事ながんばりに拍手、と共に花を持たせて下さった男性諸氏に感謝の楽しい一日でした。



幹事長のつぶやき

福澤諭吉先生生誕地碑保存運動

今年の関西合同三田会は、福澤先生の生誕地であり慶應義塾発祥の地でもある大阪で開催されました。(1ページ目記事ご参照ください)

慶應義塾は1858年(安政5年)に、築地鉄砲洲の中津藩中屋敷内で蘭学を教える「一小家塾」として開かれたのが始まりです。会場の大阪市中央公会堂にも、福澤先生や慶應義塾ゆかりの写真や年譜等が掲示されていました。

さて、大阪市福島区堂島浜通の大阪大学医学部附属病院跡地に「福澤諭吉先生生誕地碑」が建てられています。現在、生誕地碑は大阪市の所有となっておりますが、底地は都市整備公団が所有しています。この大阪大学医学部附属病院跡地について、公団が事業コンペを募集し再開発されることになりました。このため阪大病院跡地の所有権が公団から事業者に移転することになり、コンペの結果によっては生誕地碑の移転などの問題が生じる可能性があります。

このため大阪慶應倶楽部は公団等に働きかけ、「福澤諭吉先生生誕地碑の保存のための協議をすること」をコンペ募集要領に記載してもらい、さらに関係各機関にも保存のための働きかけを行なっています。神戸慶應倶楽部としても、大阪慶應倶楽部と協力し、生誕地碑の保存運動を強力に進めていきたいと思っております。会員の皆様のご協力をお願いします。

福澤諭吉先生誕生記念祝賀会

恒例の福澤諭吉先生誕生記念祝賀会(生誕169回のお祝い)が、平成16年1月10日(土)午後6時30分よりホテル阪急インターナショナル4階紫苑の間で開催されます。会費は、関西合同三田会会員は8,000円(平成6年卒業以降の会員は5,000円)ビジターは9,000円とのことです。

これまで誕生記念祝賀会は大阪慶應倶楽部の行事として開催されてきましたが、生誕地碑の移転などの問題のあることから、次年度以降は関西合同三田会の行事とし、各三田会も積極的に参加していこうという議論が出ています。次年度以降のこともありますので、第169回福澤諭吉先生誕生記念祝賀会への多数のご参加をお願いします。

(詳しくは事務局にお問い合わせください。)

会員の輪

島田博充会員より

矢形 幸之助 (平3法)

初めまして！

神戸中央法律事務所におきまして弁護士として、ここ神戸で第一歩を踏み出させて頂くことになりました。

私は神戸で生まれ、中学卒業までここで育ちましたが、その後、慶應志木高を始め長らく関東におりましたので、神戸のこともよく分からず懐かしさと同時に、全く知らない土地に来たような不思議な気持ちです。

まだまだ事件の管理・時間の管理もままならず、今日も1人、事務所に残って自己紹介文を書いています。

私の趣味というと、ダイビングでしょうか。まだ、始めたばかりですがOPEN WATERのライセンスも取りました。もっとも、休みを取って海外でというのは遙か先のことになりそうですが…。

そうそう、ゴルフも始めました。去年の冬に初めてコースに出たときは、144というスコアでしたが、いいのか悪いのか？全く分かりません。といっても、それ以来やっていませんので始めましたというもおかしいですね。

あーもうこんな時間ですね。これから先は、諸先輩方とお会いさせて頂いた時に宜しくお願い致します。

今後とも、宜しくご指導のほどお願い申し上げます。

樫根みづえ会員より

木村 裕史 (昭62商)

新入会員です

私は、今回神戸慶應倶楽部に入会させていただくことになりました。私は昭和62年に商学部を卒業後、野村証券投資信託(現アセットマネージメント)、米国モルガンスタンレー社、モルガンスタンレー・ジャパンでの勤務を経て、この度、兵庫県弁護士会において弁護士登録をするに至った次第であります。

この間、高校卒業以来20年以上東京で生活してきましたが、今回神戸でこれからの人生を生きてゆくことにしたわけであります。当初は不安もありましたが、10月に神戸慶應倶楽部の例会に参加させていただき、皆様の暖かいお人柄にふれさせていただくことができ、大変心強く思いました。また、久しぶりの「若き血」を熱唱する機会にも恵まれ素晴らしいひと時を過ごすことができました。

私は、社会人になってから山歩きが趣味になり、穂高や白馬等に登頂したり、アフリカのキリマンジャロにも登頂してきました。六甲山は見かけ以上にしんどい山であるということを知っており、是非とも歩いてみたいと考えております。

また30年来のタイガースのファンであり、サンテレビで毎日試合終了までタイガースの試合が見られると思うと嬉しくて、神戸に来てよかったと思います。

どうか、宜しくお願い申し上げます。

今日は新入会員のご挨拶でした。

お二人ともこれからの時代を担う新進気鋭の弁護士さんです。当倶楽部には、ベテランから新人まで辣腕ぞろい、なにが起ころうとも心配なし！心強い限りです。

さて、来年からもこのコーナーは続きます。まだ輪に入っていない方は勿論のこと、すでにスクラムを組んでいる方も、二重三重の輪で社中の絆をしっかりと結んでまいりましょう。

新入会員紹介

～年末家族例会のご案内～

日時：12月19日(金) 18:30より
会場：“THE HOUSE OF PACIFIC KOBE”



神戸市中央区北野町1-5-10
TEL: 078-262-8180 FAX: 078-242-8190
会費：会員 8,000円(男女とも)
平成6年卒以降の会員 6,000円
ビジター：大人 8,000円・中高生 4,000円
小学生以下 無料

会場は不動坂を登り切った北野の高台にあり、ライトアップされた建物は上質のオリエンタルムードたっぷりです。会場のパーティールームからは神戸の夜景が一望できます。夜景を楽しみながら、仏・伊・中・和・アジアンの技を駆使した「インターナショナル・キュージーヌ」を召し上がってください。

アトラクションとしまして、相愛大学音楽学部管楽器専攻4回生の高島静奈さんと同3回生藤田育子さんのお二人にフルート演奏をお願いしています。

また、恒例のウッチーによるオークションも行ないます。今回はどのような出で立ちで登場するか、乞うご期待です。お楽しみに！

多数の出品をお願いすると共に、オークションでの高額買取をお願いします。



「月刊BRB」についてのご意見、ご感想をお聞かせください。
堀 友子
八巻 晤郎

～今後の行事予定～

- 平成16年1月5日(月) 11:00～17:00
新年賀詞交歓会 倶楽部ルームにて
- 1月10日(土) 18:30～
福澤諭吉先生誕生記念祝賀会(4ページ参照)
記念講演：安西祐一郎塾長
阪急インターナショナル4階「紫苑の間」
- 1月16日(金) 19:00より
不動産三田会との合同例会
講師：北口寛人氏(明石市長)
ポートピアホテル
- 2月18日(水) 18:30～
2月度例会 倶楽部ルーム 講師未定
- 3月26日(金) 18:30
3月度例会 東天閣
講師：野澤武史氏(神戸製鋼ラグビー部) 予定
- 4月21日(水) 18:30～
4月度例会 倶楽部ルーム 講師未定
- 5月21日(水) 18:30～
2004年度総会 蘇州園
詳細につきましては、決まり次第BRB・メールマガジン等でお知らせしますので、毎月ご覧ください。



= 訃報 =

当倶楽部会員 長谷川 恭助氏(昭47経)
11月8日(土)に東京の出張先で心筋梗塞によりご逝去されました。(享年57歳)
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。合掌

○関西合同三田会の席で、塾監局広報担当課長の廣田女史にお会いしました。季刊誌『塾』を編集しておられます。大変素晴らしい冊子でいつもお手本にしています。お陰さまでBRBもやつと市民権を得た処です。更なる内容の充実を図りたいと、皆様のご理解ご協力を切に願っています。今日この頃です。(ほ)

○「社中の心」、泥まみれになって日吉のグラウンドで「タイガージャージ」の集団を引っ張る中神先輩が誌面から飛び出てきそうです。TVでみる格好いいボール回しと得点シーンに至るまでのしんどく、泥臭い基本練習の繰り返しや体育会に生きる福澤精神など、次回が楽しみです。(晤)